

- (1) 村上 飯藏 滿洲關東州地質調査報告(大正四年)
- (2) 羽田 重吉 營口岡幅及同地質説明書(大正一四年)
- (3) 青地 乙治 鳳凰城岡幅及同地質説明書(昭和二年)
- (4) 花井 重次 遼東半島に發達する所謂低位置準平原とその諸性質に就て、地理學評論第四卷、九二九―九四〇頁、昭和三年
- (5) 新帶國太郎 大和尚山地質案内略記、中日文化協會發行「大和尚山」一六―四六頁、昭和五年
- (6) 福田 敦作 地理的に觀た大和尚山、同右四七―六五頁
- (7) 河田 四郎 準平原の地形計測の一考察、地理學評論 六卷、五二〇―五二五頁、昭和五年
- (8) 松下 進 關東州大和尚山に於ける片麻岩と震旦系珪岩層との關係に就て、小川琢治博士還曆記念地學論叢、昭和五年
- (9) 松下 進 關東州金州附近ノ地質ニ就テ、旅順工科大学報告第一卷第一號、昭和五年
- (10) 羽田 重吉 奉天岡幅及同地質説明書(昭和六年)
- (11) 松下 進 On the Mesozoic and Tertiary Crustal Movements in the Kuan-tung Province, South Manchuria. Proc. Imper. Acad. VII(1931), No. 7.
- (12) 〃 關東州金州周水子間の地質に就て、旅順工科大学報告第一卷第四號、昭和六年
- (13) 〃 關東州の震旦系(摘要)、地質學雜誌、昭和七年

滿洲の氣候區

入江久夫

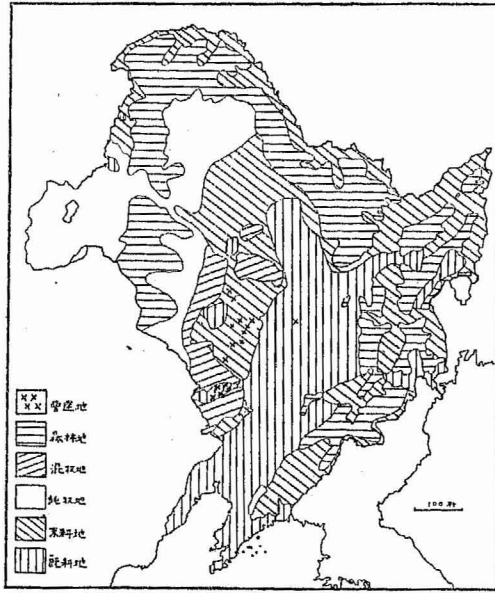
一地方の自然乃至文化景觀を制定せんとするに當り氣候はその基礎條件をなす。本文は滿洲の景觀的研究の一前提としての氣候を區劃するを目的とする。

從來の氣候區の代表的のものは W. Köpen の氣溫、雨量を要素とするもの、Paul Hirth, De Martonne 等の乾燥度による分類、最近試みられた C. W. Thornthwaite の植物の成長と氣候に關する Livingston の説を基とした蒸發量と氣溫及蒸發量と降水量に關する係數を求めこれに依る分類等がある。然し一地方的氣候區の分類に適用するに十分なるものとするには出來ない。又、Thornthwaite の蒸發量の觀測なき地方に對する氣溫及降水量と蒸發量に關する係數を求め方法に於ては應用することは出來ない。地方的の氣候區は米國に Köpen の方法を基礎としたものがあり、日本に關しては田中啓爾氏、福井英一郎氏が試み又 Sander 及 Stamp の分類があるけれども氣溫、降水量を要素として居る。獨特な氣候型式を有する滿洲にこれらの方法を其儘適用出來ないことは當然である。即氣溫・降水量・大陸的氣候の限界を主要素として氣候區を制定せんとする所以である。其他の氣候因子は各地大差なきか又はこの氣候區に依り或程度迄滿洲に於て代表し得ると信ずる。

一、氣溫に就ての分類は Köpen の方法に依り北滿國境地方の氣候公式 D_{bw} 即最寒の月の氣溫零下三度以下最暖の月の平均氣溫が一〇度以上で且二度以下で四ヶ月以上平均氣溫が一〇度以上であり乾燥期は冬である地方と、残りの氣候公式 D_{aw} なる最寒月の平均氣溫零下三度以下最暖月の平均氣溫が二度以上で乾燥期は冬來る地方との二つに分けられる。 D_{bw} の地方は森林の分布と一致し D_{aw} は草原性の地帯により占められて居る。(圖一)

二、降水量につき更に細分するに滿洲全體の雨期は夏であることは前述の如くであるが、年雨量

第 一 圖



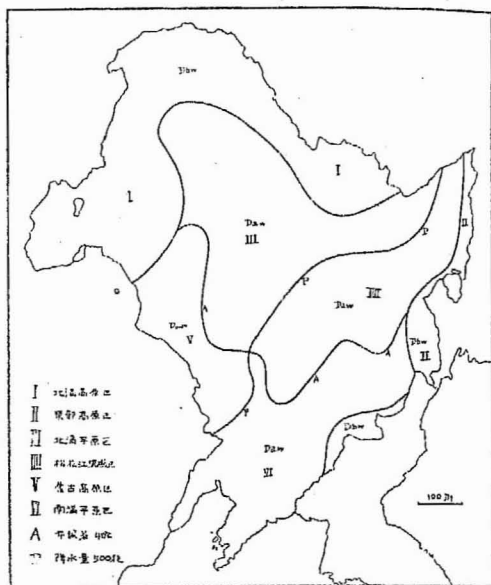
は南東より北西に減少する傾向を有し、五〇〇耗の等雨量線を滿洲に於ける乾燥地と濕潤地の限界となす。夏季に於ける一時的の降雨と蒸發の盛んなることが成生の一條件となる天然曹蓬の草原（城甸子）及湖（城泡子）が五〇〇耗の等雨量線を限界としてその北西に分布して居る。

（圖一）蒸發量に關して東支鐵道沿線の材料を缺く故に正確を期することは出来ないが、大體に於て五〇〇耗の等雨量線の北西部に於て著しく増加して居ることが認められる。遼河流域のアルカリ土壤

帯は上流の天然曹蓬の流下によつて作られたものである。農業上から見ると五〇〇耗の年降雨量は一般に棉花栽培の最小條件であり、且又南部に於ては農耕地と牧畜地の限界に大體一致する。

三、滿洲全體大陸的氣候に屬する。即氣溫の年較差は二〇度以下の土地なく最小は旅順の二八・七度である。Hann による海洋的氣候は南部遼東半島の一部に限られて居るが A. Supan の大陸的氣候 (Landklima) と超大陸的氣候 (Excessives Landklima) との限界線を年較差四〇度の線に取

第二圖



り、南北に滿洲を分つ。超大陸的氣候は冬の寒さの中心を示すもので Werchojansk (六五・九度) を中心として居る。

前述の如く Köppen の分類を基とし降水量、氣溫較差により滿洲の氣候を六分した。(圖二) 其各氣候區を再考するに

一、北滿高原區、北滿の北西大興安嶺に起り北部小興安嶺を含み北東部に終る疎林及密林の蔽ふ地方で、これが露領に入り彎曲して

入り、白頭山を中心として再び表はれて居る。一、と同様森林の蔽ふところである。

三、北滿平原區、北滿高原區の南に接し草原性の土地である。

四、松花江流域區、北東より南西に細長き形を有して居る。此の形狀は南西風の影響することが大である。

五、蒙古高原區、乾燥地を有し砂丘が處々に作られる。

六、南滿平原區、農耕地廣く處々に稚林を混ずる。

主 要 參 考 文 獻

1. A. Defant und E. Obst:1923 Luftfülle und Klima. Enzyklopadie der Erdkunde, Frauz Denticke, Leipzig u. Wien.
2. A. Supan:1927 Physische Geographie, Walter de Gruyter & Co. Berlin u. Leipzig.
3. B. E. and G. J. Livingston:1913 Temperature Coefficients in Plant Geography and Climatology. Botan. Gaz., Vol. 53.
4. B. E. Livingston:1916 Physiological Temperature Indices for the Study of Plant Growth in Relation to Climatic Conitions. Physiol. Res., Vol. 1.
5. C. W. Thronthwaite:1931 The Climate of North America. According to a New Classification. Geogr. Rev., Vol. 21.
6. Emmanuel de Martonne:1926 Areismé et indice d' aridité. C. R. de l' Acad. des Sci. de Paris, t. 182.
7. P. Hirth:1926 Die Isonotiden. Petermanns Mitt., Bd. 72.
8. S. B. Jones:1932 Classification of North American Climates: A Review. Economic Geogr., Vol. 8.
9. W. Köppen:1923 Die Klimate der Erde. Metzger u. Wittig, Leipzig.
10. W. W. Robbins:1927 Principles of Plant Growth. John Wiley and Sons, Inc., London.
11. 滿鐵 農務課 蒙古の天然曹達 大正十一年
12. 滿鐵 調査課 滿洲の農業 昭和六年
13. 全 滿洲産業統計 昭和六年
14. 東支鐵道 氣象統計
15. 朝鮮總督府觀測所年報
16. 關東廳觀測所 滿洲氣象報告
17. 滿鐵 農務課 滿洲農業氣象報告